令和４年度　学校評価計画書

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
1	確かな学力の醸成のために、主体的・対話的で深い学びにより、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力を育成する。	①	習熟度別の学習指導を推進し、個に応じた学力の伸長を図る。	各教科 各学年 進路指導課	習熟度別学習指導の効果は、中・下位層には見られるが、上位層にまでは至っていない。	【　成果指標　】 各習熟度において学力が伸長している。	模擬試験の英数国総合偏差値で 60以上10%、55以上20%、50以上50% の3つの項目のうち Ａ：　全て達成　　Ｂ：　２つ達成 Ｃ：　１つ達成　　Ｄ：　達成なし	Ｃ以下の場合は、学年及び教科で指導体制を検討する。	1・2年は１月、3年は10月の模擬試で評価
		②	予習・授業・復習のサイクルを確立し、自律的学習習慣を定着させる。	各学年 進路指導課	学習意欲の高い生徒も一定数いるものの、全体としては学習習慣の定着には至っていない。	【　成果指標　】 学習サイクルが定着し、授業外学習時間が増加している。	新路アンケートで授業外での学習時間が学年＋1時間の生徒の割合が Ａ：　７０％以上　　Ｂ：　６０％以上 Ｃ：　５０％以上　　Ｄ：　５０％未満	Ｃ以下の場合は、学年及び教科で指導体制を検討する。	進路アンケートで評価
		③	公務員試験に対応できる幅広い知識と情報処理能力を育成する。	各教科 進路指導課	特定分野で学力が未定着の生徒が見られ、分野ごとに対策が必要である。	【　成果指標　】 個々が苦手分野を克服し、学力が伸張している。	公務員模擬でのBランク以上の生徒の割合が Ａ：　６０％以上　　Ｂ：　４０％以上 Ｃ：　３０％以上　　Ｄ：　３０％未満	Ｃ以下の場合は、進路及び各教科で取組を検討する。	8月模試で評価
		④	多角的に考察できる学習課題を精査し取り組ませることで、思考力を育成する。	各教科 教務課	知識偏重の学習に終始し、論理的かつ批判的に思考するまでには至っていない。	【満足度指標】 授業を通じて学力（思考力）が身に付いたと実感している。	授業改善アンケート項目⑥「この授業で学力がつく」⑩「友人と意見を共有することにより理解を深めることができる」の評価が Ａ：　９０％以上　　Ｂ：　８０％以上 Ｃ：　７０％以上　　Ｄ：　７０％未満	C以下の場合は取組を見直す。	生徒による授業改善アンケート（年２回実施）で評価

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
2	生徒の人間関係力を育成することにより、円滑な社会生活を送る資質を養い、人間力を育む。	①	HR活動や委員会活動を通して、集団における人間関係力を育む。	生徒指導課 全職員	コロナ禍ではあるが、生徒会中心に工夫を凝らして学校行事を運営することで、人間関係力が高まりつつある。	【　成果指標　】 生徒間で十分な意見交換を行い組織的に取り組んでいる。	意見交換を行い、協働した取組が日常的に出来たと考える生徒の割合が Ａ： 80%以上　　Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上　　Ｄ： 60%未満	Ｃ以下の場合、 指導方法を見直す。	年２回（７月・１月）の生徒アンケートで評価
		②	携帯電話･スマートフォンの使用ルール遵守と使用時間の削減に取り組ませる。	生徒指導課 全職員	携帯電話・スマートフォンの学習以外での使用時間が長く、学習時間が確保できていない。	【　成果指標　】 携帯電話･スマートフォンの学習以外での使用時間が減少している。	生徒1人あたりの携帯電話･スマートフォンの学習以外の1日平均使用時間が Ａ： 30分以内　　Ｂ： 40分以内 Ｃ： 50分以内　　Ｄ： 50分より長い	Ｃ以下の場合、指導方法を見直す。	年５回の生徒アンケートで評価
		③	時間厳守の習慣の確立を目指し、「遅刻0運動」を継続する。	生徒指導課 全職員	チャイムと同時に授業を開始することはできているが、「遅刻0」の日数は70%と不十分である。	【　成果指標　】 「遅刻0」の日数が増えている。	「遅刻0」の日数が授業日数に対して Ａ： 85%以上　　Ｂ： 75%以上 Ｃ： 65%以上　　Ｄ： 65%未満	Ｃ以下の場合、指導方法を見直す。	生活委員による毎週末の遅刻集計により評価
		④	挨拶、身だしなみ、交通ルール遵守など、基本的な生活習慣を定着させる。	生徒指導課 全職員	挨拶のできる生徒の割合は高く、身だしなみに関して指導を受ける生徒もほとんどいない。	【　成果指標　】 集団生活における規律を遵守し、人間関係力が向上している。	日常的に挨拶ができ、規則を守ることが出来た生徒の割合が Ａ： 85%以上　　Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上　　Ｄ： 60%未満	Ｃ以下の場合、指導方法を見直す。	年２回（７月・ １月）の生徒アンケートで評価

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
3	地元中学校や地域社会と連携した取組により、学力はもとより、様々な発想力や実践力を高める。	①	他者や地域と協働した探究学習を行うことで、学びに対する前向きな心を育む。	ゆめかな（総合的な探究の時間）担当	総合的な探究の時間（「ゆめかな」）に対しては一定の満足度が得られている。	【満足度指標】 「ゆめかな」の探究活動に満足している。	「ゆめかな」に対する生徒の満足度が Ａ： 80％以上　Ｂ： 70％以上 Ｃ： 60％以上　Ｄ： 60％未満	Ｃ以下の場合は担当教員間で指導体制を検討する。	年２回（１１月・３月）の生徒アンケートで評価
		②	各教科の授業や探究学習において地元小･中学校との接続･連携を推進する。	各教科 ゆめかな担当	英語科は地元小・中学校との連携が図られているが、他教科にまでは波及していない。	【　努力指標　】 地元小･中学校と連携した学びの場･時間を創出している。	地元小･中学校と連携した授業回数が Ａ： 20回以上　Ｂ： 15回以上 Ｃ： 10回以上　Ｄ： 10回未満	Ｃ以下の場合は取組を見直す。	８月と１月に、総務課が回数を集約し評価
		③	地元産業に貢献する人材育成のため企業見学会や講演会を実施する。	進路指導課	地元企業に対する知識が不足しており、卒業直後だけでなく進学後も地元就職を希望する生徒が少ない。	【　成果指標　】 地元企業への理解を深め、地元への貢献意欲が高まっている。	地元への興味･関心や貢献意欲が高まった生徒が Ａ： 80％以上　Ｂ： 70％以上 Ｃ： 60％以上　Ｄ： 60％未満	Ｃ以下の場合は指導方法を見直す。	年２回（７月・１月）の生徒アンケート（２年ビジネスコース対象）で評価
		④	産学官地域連携人材育成事業や地域学等において、地域と連携して地域愛を育む。	ビジネスコース	総合学科での取組を引き継ぎ、地域と連携して諸課題の解決に取り組んでいる。	【成果指標】 観光ガイドや販売実習等の活動により地元理解が進み、地元への貢献意識が高まっている。	地元理解や地元への貢献意欲が高まった生徒が Ａ： 80％以上　Ｂ： 70％以上 Ｃ： 60％以上　Ｄ： 60％未満	Ｃ以下の場合は取組を見直す。	年２回（１０月・２月）の生徒アンケート（ビジネスコース対象）で評価
		⑤	ボランティア活動や小･中学校との活動を通して地域に貢献できる人材を育成する。	生徒会	コロナ禍の中、地域行事等が自粛傾向にあり、活動のあり方を模索している。	【努力指標】 地域や小･中学校との連携を図りながら地域貢献に対する意欲が育まれている。	地域に関わろうとする意欲がが高まった生徒が Ａ： 80％以上　Ｂ： 70％以上 Ｃ： 60％以上　Ｄ： 60％未満	Ｃ以下の場合は取組を見直す。	年２回（１１月・２月）の生徒アンケートで評価

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
4	教職員自らが効率的な業務や指導法の改善により、ワークライフバランスを実現する。	①	若手教員早期育成プログラムの推進と併せ、研究授業や互見授業により授業改善を図る。	総務課	若手教員の割合が高く、生徒の進路実現に向けた授業力向上が求められている。	【努力指標】 様々な校内研修や互見授業等を通して指導力が向上している。	指導力が向上したと感じた教員が Ａ： 80％以上　Ｂ： 70％以上 Ｃ： 60％以上　Ｄ： 60％未満	Ｃ以下の場合は取組を見直す。	年２回（９月・１月）の教員アンケートで評価
		②	授業改善アンケートの結果をもとに授業改善を図り，分かりやすい授業を展開する。	各教科 教務課	学力の２極化が進み、習熟度別学習指導はもとより授業力の改善が求められている。	【努力指標】 授業が分かりやすく、学習に意欲的な生徒が増加している。	授業は分かりやすいと感じた生徒が Ａ： 80％以上　Ｂ： 70％以上 Ｃ： 60％以上　Ｄ： 60％未満	Ｃ以下の場合は取組を見直す。	生徒による授業改善アンケート（年２回実施）で評価
		③	研修などを通してカウンセリングマインドを涵養し、多様な生徒への指導力を高める。	各学年 保健厚生課	学習や人間関係に不安を感じ、教室に入れなかったり不登校となる生徒が増加している。	研修会で得た生徒理解のための知識や方法を実践しようとしている。	研修会で得た知識などを実践している教員が Ａ： 80％以上　Ｂ： 70％以上 Ｃ： 60％以上　Ｄ： 60％未満	Ｃ以下の場合は取組を見直す。	研修会後のアンケートで評価
		④	夏季における柔軟な勤務時間制度を活用することで、生産性が高く効率的な業務遂行を推進する。	総務課	夏季における柔軟な勤務時間制度については、あまり活用されていない状況である。	【努力指標】 夏季における柔軟な勤務時間制度を活用している。	夏季における柔軟な勤務時間制度の活用が前年比 A:　15％以上　B:　10％以上 C:　5％以上　D:　5％未満	Ｃ以下の場合は取組を見直す。	７月・１月の教員アンケートで評価
		⑤	ゴミ削減を推進するなど職場の環境美化を推進することで業務の効率化を図る。	保健厚生課	資源ゴミのリサイクルの徹底が不十分であるなど、環境美化に対する意識は高まっていない。	【　努力指標　】 資源ゴミのリサイクルや職場環境の美化に努めている。	資源ゴミのリサイクルや職場環境の美化に努めていると感じた教員が Ａ： 75％以上　Ｂ： 65％以上 Ｃ： 55％以上　Ｄ： 55％未満	Ｃ以下の場合は取組を見直す。	７月・１月の教員アンケートで評価

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
5	GIGAスクール構想実現に向けて、個人の授業力向上とともに学校教育力を高める。	①	GIGA校内研修年間計画に基づいて研修を進める。	GIGA校内研修推進リーダー	生徒用端末が導入され、１人１台端末を用いての授業が可能となった。	【　努力指標　】 教員が1人1台端末を活用した授業が出来る。	授業で5回以上1人1台端末を用いた教員が Ａ： 80%以上　Ｂ： 60%以上 Ｃ： 40%以上　Ｄ： 40%未満	C以下の場合は取組を見直す。	年２回（９月・１月）の教員アンケートで評価
		②	生徒の主体的な学習姿勢を涵養するため、タブレットを用いた授業を推進している。	教務課	ＩＣＴ機器の活用は進んでいるが、生徒が主体的に端末を使用するまでには至っていない。	【満足度指標】 1人1台端末を活用した授業で、生徒の主体的な学習姿勢が育まれている。	1人1台端末を活用した授業で、学習に対する興味や意欲が高まった生徒が Ａ： 80%以上　Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上　Ｄ： 60%未満	C以下の場合は取組を見直す。	年２回（９月・１月）の生徒アンケートで評価
		③	ICT機器の活用によりペーパーレス化を図るなどして、業務の効率化を図る。	教務課	校務用ツールの充実は見られるが、系統立てた利用により業務の効率化が進むまでには至っていない。	【　努力指標　】 ICT機器の活用により教員相互の情報共有による業務の平準化･効率化に努めている。	ICT機器の活用により業務の平準化･効率化が進んだと感じる教員が Ａ： 90%以上　Ｂ： 80%以上 Ｃ： 70%以上　Ｄ： 70%未満	C以下の場合は取組を見直す。	年２回（９月・１月）の教員アンケートで評価